希望新聞:東日本大震災　音楽で宮城・女川を元気に　大川小遺族がラジオＤＪ　歌に思い託し

毎日新聞　2014年12月05日　東京朝刊

宮城県女川町の「女川さいがいＦＭ」で放送中の「佐藤敏郎の大人のたまり場～牡鹿半島フォークジャンボリー～」が東日本大震災で傷ついた被災地を元気づけている。同県東松島市の中学教諭、佐藤さん（５１）が懐かしの名曲を紹介する週１回の３０分番組で、インターネットでも配信。佐藤さんは震災で同県石巻市立大川小６年生だった次女みずほさんを亡くした。同年代、そして娘と同じ世代に向け、歌に思いを託している。

飛び入り参加の地元住民と談笑しながら収録に臨む佐藤敏郎さん＝女川町の女川さいがいＦＭで２０１４年１１月１３日、百武信幸撮影

「ラジオの前の皆さんお元気ですか、佐藤敏郎です。この前、学校でこんなことがありまして」。４月の開始から３０回を超えた番組は、深夜放送の雰囲気。「中高年」と「中高生」を意識し、かける曲の時代背景や歌詞の意味を解説する。リクエストも受け付ける。スタジオには地元の「フォークソング世代」の女性が参加し、佐藤さんと歌声を響かせることもある。

佐藤さんは３月まで１２年間、女川中学校などに勤務。教え子や顔見知りの保護者も多い。震災前から同年代とバンドを組んでイベント出演するアマチュア演奏家の顔も持つ佐藤さんは、放送局から「女川を元気づけてほしい」と頼まれ、無償出演をＯＫしたという。

番組冒頭、佐藤さんは「音楽の力を借り、皆さんと自分自身を元気にする３０分」というフレーズを口にする。学校で犠牲になったみずほさんへの哀惜の念は今も強い。

「自分で言葉にせずとも、歌は思いを伝えてくれる。この前かけた中島みゆきさんの『時代』なんか、聴きながら涙が出て。ラジオは今の私にとって光です」。悲劇が忘れられないよう、大川小の話をしたこともある。

将来、番組で往年の名歌手を招き、女川で「フォークジャンボリー」（野外音楽イベント）を開く夢がある。佐藤さんは「ラジオを通じつながる縁を、全国へ広げたい」。放送は金曜午後１１時（再放送あり）。インターネット放送「リスラジ」で同時刻に聴くことができる。【百武信幸】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.